

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391300114		
法人名	(株)ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ひょうたん山そよ風 2階		
所在地	名古屋市守山区守山二丁目12番2号		
自己評価作成日	令和2年12月1日	評価結果市町村受理日	令和3年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2391300114-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和2年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎月定期的に事業所内研修を行い職員のスキルアップの向上に努めている。教えられるだけではなく教える側に立つことで自己研鑽に努め、より容易ケアの提供に努めている。 ・コロナ渦の中でもご入居者と家族でビデオ通話の運用を行ったり、利用状況を毎月家族へ工夫をしながら報告をしたりと、家族との繋がりをなくすことがないよう努めている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは小規模多機能型事業所を併設して運営していることで、小規模多機能を利用しながら利用者や家族の状況に合わせてグループホームに生活場所を移行する支援が行われており、円滑な移行にもつながっている。行事等についても、ホーム建物1階に開設されている小規模多機能のフロア広い空間であることで多くの方が集まることのできることで、ホームからも利用者が参加し、様々な方との交流の機会がつけられている。今年度は感染症問題があることで地域の方との交流が困難になっているが、例年は、地域の方との交流の機会をつくり、合同で開催した行事の際には、多くの地域の方の参加が得られている。また、運営推進会議についても、ホームからの働きかけを行いながら地域の方や家族の参加が得られており、出席者との定期的な情報交換の機会につながっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	お客様にとって当ホームが自らの生活の場であり、在宅の延長としてその方らしく暮らしていただけるような介護を心掛けるようミーティングなどで共有している。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、職員間で理念の内容を意識するような働きかけが行われている。理念をホームの事務室等に掲示する取り組みも行われている。	理念は、事業所の目標でもあるため、今後に向けた職員間での理念の共有の取り組みにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響で交流は少ないが、挨拶など常日頃から心掛けている。	今年度は地域の方との交流が困難になっているが、併設事業所と合同で開催した行事の際には、多くの方の参加が得られる等、ホームを知ってもらう機会がつけられている。また、新たに「そよ風スタンプラリー」の取り組み等、様々な交流の機会がつけられている。	今年度は、地域の方との交流が困難になっているが、開設以来、地域の方との交流が深まっていることもあるため、感染症問題が落ち着いた際には、ホームの様々な取り組みが再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響で実践の機会を設けることが出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルスの影響で対面での実施が出来ていない。活動報告及びサービスに対するご意見を照会でいただき、情報交換をしている。	今年度の会議は書面による実施となっているが、会議を開催する際には、複数の地域の方の参加が得られており、地域の方との定期的な情報交換にもつながっている。また、家族への参加の呼びかけも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	不明点は名古屋市指導課にお聞きし、協力関係を築くようにしている。最近では栄養スクリーニング加算の件や運営推進会議の開催の件について問い合わせをした。	ホームで生活保護の方の受け入れが行われており、市担当部署との情報交換等が行われている。また、併設事業所とも連携しながら、地域包括支援センターとの困難事例等に関する情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修と委員会を毎月開催し身体拘束対象者なしを継続できている。職員同士の目により正しいケアが継続できている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、職員間で利用者の状況等に合わせた対応等が行われている。また、毎月の会議を通じた身体拘束に関する検討や定期的な職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様定期的に研修と委員会を毎月開催し身体拘束対象者なしを継続できている。不適切なケアがないか意見箱を設置し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護を活用しているご利用者様が現在いない。職員は研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項説明書をもとに細かな説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議にて家族へのアンケートを実施し意見を反映させている。	例年は、ホームの行事を通じた家族との交流が行われている。家族からの要望等については、内容にも合わせて、運営法人の専門の窓口を明示する取り組みが行われている。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングの場にて意見や提案を聞く機会を設け、意見は役職者で共有し反映させている。	毎月の職員会議を行いながら、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。事業所を統括するセンター長とホームの管理者と役割分担が行われており、職員との面談等の取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	公休・有給の消化を行い職員が働きやすい環境で働くことが出来るように努めている。個々の向上心に差がある部分は課題。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年計画で研修を組み、職員自ら勉強会の内容を考え、勉強会を行っている。新入職員へはOJT研修を設けトレーニングの機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同法人内でオンラインにより交流する環境は増えているが必要性を感じないこともある。法人内の職員数が多いことも課題。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	併設している小規模多機能型居宅介護を利用していただお客様が入居する機会が多い為、信頼関係は早い段階で構築出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	新型コロナウイルスの影響で対面で要望を聞くことが出来ないが、ニーズに対する情報を共有しスムーズな受け入れが出来るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	小規模多機能型居宅介護のケアマネより情報を共有し、費用の面など必要であれば他サービスの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お客様から教えて頂くことも多く、尊厳を大切にされたケアを心掛けている。お客様間でトラブルになるようなこともあるが、間に入り対応するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ビデオ通話や、毎月家族へお手紙を送付し細かく連絡を取り合っている。共に支えていく関係を築けていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの影響で家族以外の馴染みの人との交流を図ることが出来ていない。	併設事業所に利用者の関係の近い方が利用する等、ホームの利用者との交流の機会をつくり、馴染みの方との交流にもつなげている。また、例年については、家族の協力を得ながら、行きつけの美容院や身内の方の墓参り等に出かける機会もつくられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者が孤立することが無いよう、間に入りコミュニケーションを図っている。配席など考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去理由が死亡によることが大半の為、取組みが少ない。連絡があった際は応じるようにし、必要に応じて相談を受ける。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴など1対1になる際に、コミュニケーションも兼ねて利用者のニーズを把握するようにしている。	日常的には電子記録を活用しながら情報の共有が行われており、利用者に関する意向等の把握につなげている。また、カンファレンスの前に職員から気付き等を出してもらい取組みも行いながら、意向等を日常の支援につなげる取組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用前の習慣をアセスメントし、職員間で共有している。習慣は継続できる範囲で出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムの継続、更衣の際の全身チェックなど心身状態の把握に努めている。普段と違うことは申し送りでスタッフ間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のフロアミーティングで職員と話し合い、ご家族の意見も反映し介護計画を作成している。作成後はご家族に説明し、都度状態報告をしている。	介護計画を6か月を基本に見直しが行われており、利用者の変化等に合わせた取組みが行われている。また、日常的にも電子記録を活用しながら変化等の把握を行い、毎月のモニタリングにつなげる取組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	普段と違うことがあれば記録に残し、申し送りで情報を共有している。月1回の会議で実践状況を確認し、ケアプランの見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状態によって臨機応変に対応している。併設の小規模多機能型居宅介護と協力しながらサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスの影響で交流の機会が少ない中でも民生委員や町内会の方と協力できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎週かかりつけ医による往診があり、本人及び家族の意向を大切に医療の提供に努めている。	協力医による定期的な訪問や随時の対応が行われており、医療面での柔軟な支援が行われている。受診は家族による支援を基本に、状況等に合わせた職員による対応が行われている。また、訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪看ノートを作成しコミュニケーションツールとして活用。また上申事項ファイルへ利用者の心身状態の変化を細かく共有し、医師に情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	紹介状を書いていただくなど、協力していただいている。介護サマリーを提供するなど、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約の段階で事業所で出来る看取り介護の説明を行い、生前の事前確認を行っている。終末期は状態が変わるたびにカンファレンスを行い、ご家族の意向の下、今後の方針や緊急時の対応等を医師・ご家族と話し合いを行っている。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、協力医との連携を深めながら、ホームでの看取り支援が行われている。家族との話し合いを重ねながら、次の生活場所への移行支援も行われており、利用者や家族の意向に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時対応フローを事務所の壁に貼り周知している。24時間の医療機関とのオンコール体制があり事業所にAEDも設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を実施することになっているが今年は新型コロナウイルスの影響で実施が出来ていない。集合での訓練が望ましくない為防火管理者主導のもと少人数で流れや備蓄品の確認を実施予定。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。併設事業所との合同の訓練等、通報装置が1階にあることで事業所間での連携も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームの立地場所が斜面に建てられていることもあるため、土砂災害のリスクが考えられる。近隣の方との協力関係の取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの尊厳を大切に声掛けを意識して行っている。お客様目線で話を傾聴するように努めている。	ホームでは、利用者が一人ひとり違うことを職員に伝えながら、利用者を尊重し不適切なケアが行われないような働きかけが行われている。また、職員の接遇につながる研修の取り組みも行われており、職員の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声掛けの方法を一人ひとり工夫し、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員主体とならないよう、お客様が選択できるレクの提供に努めている。出来る範囲で希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装や整容を心掛け、メリハリのある生活が送れるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は厨房で用意をする為、準備や片づけは職員が行っている。おやつ作りを利用者様と行っている。食事形態など細かく対応している。	食事については、ホームのキッチンの他にも併設の厨房も協力しながら提供が行われている。外部の業者も活用しながら利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、おやつ作りの機会をつくり、利用者の楽しみにつなげている。	現状の職員体制もあり、食事に関する利用者の参加の機会が限られていることもあるため、おやつ作りの取り組みを充実させる等、利用者が参加する機会が増えることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養スクリーニング加算を算定するようになり、一人ひとりの栄養状態を共有している。食事形態、水分量の目安をバイタルチェックシートに記載し共有をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、自立されている方も仕上げ磨きをして口腔内の清潔を保つようにしている。週1回は歯科往診にて個別の指導を受け対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄の失敗を減らす為の取り組みをフロアミーティングで話し合い、全体で共有し、統一して実行することで習慣づけることが出来ている。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報の共有を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレでの排泄を目指しながら、利用者の状況等に合わせた、職員2名で対応する等、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	出来るだけ下剤に頼らないように、便秘に効く取り組み(食物繊維や乳製品の提供)を統一して行っている。下剤服用の回数は減少した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	個々の体調によって入浴日を変更したり、時間をずらしたりして対応をしている。	週2回の入浴を基本に、職員間で声かけを行いながら、入浴も拒む方も定期的に入浴できるように支援が行われている。身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムを整えることで安眠が出来るように支援をしている。夜間は照明の明るさを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	降圧剤や命に係わる薬を服用している方は、個人ファイルの背に分かりやすいようにテプラを貼り周知している。他の薬剤情報も整理して見やすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出が好きな方は散歩に出かけたり、アルコールが好きな方は晩酌をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響で外出レクは実施できていないが、ドライブや散歩に行けるような支援をしている。併設の小規模多機能型居宅介護で生き物を飼育しており、楽しみが生まれている。	感染症問題があることで利用者の外出が限られた範囲となっているが、近隣の散歩や自動車を活用した外出等、現状で可能な支援が行われている。例年は、年間を通じた外出が行われており、利用者の楽しみにつなげている。	様々な場所に出掛けていた取り組みが中断している状況が続いていることもあるため、今後の感染症問題が落ち着いた際には、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭のお預かりについて同意書を頂き、管理はさせて頂いている。お金を常に持っていないと不安になってしまう方に関しては少額を持ち管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	感染予防の観点からお客から電話を掛けることは出来ないが、ビデオ通話を利用した家族との時間を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	レクで季節感のあるものを利用者様と一緒に工作をし廊下や壁に飾り付けをしている。	ホームのリビングが建物の2階と3階にあることで、採光に優れた明るい雰囲気となっている。また、リビングから居室に続く通路の幅が広く、距離も長いこともあるため、利用者の歩行訓練などにもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビを囲い茶の間のようにしてソファを配置しており、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはテレビや座椅子など、一人ひとりの好みによって物が置かれている。持ち込んだものを居室に飾ったり、家族の写真を壁に貼ったりしている。	居室については、収納スペース等の設置が行われていることで持ち込みの少ない方もいるが、利用者の中には、意向に合わせた好みの物等の持ち込みが行われている。また、趣味の物を持ち込む等、人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所や自室と分かりやすいように、絵や写真などを貼り工夫している。		